

日本応用老年学会メールマガジンは、日本応用老年学会会員・関係者にむけて日本応用老年学会事務局が毎月発行しております。

— 目次 —

- 【1】再:事務局からの御願い
- 【2】ホームページ NEW!
 - ・SAG-J 広場のお知らせ
 - ・学会員の活動状況
- 【3】朝日新聞連載「老い 十五章」柴田 博
 - 2. 味覚は経験重ねて研ぎ澄ます

【1】再:事務局からの御願い

2009 年度会費が**未払いの方**は、何卒、お振込の程御願いたします。
学会の活動は、みなさまからの会費でまかなわれております。

【2】NEW! 2010 年 2 月 ホームページ

●学術会議主催 シンポジウムのお知らせ(3 月 13 日開催)
「高齢者の健やかな生活を実現するために」基盤づくりと人材育成

※詳細はこちら

学会 HP「SAG-J 広場」

<http://www.sag-j.org/community/>

●第9回社会技術フォーラムのお知らせ(3 月 15 日開催)
新領域に関する社会との対話「将来の高齢社会に向けて私たちは何ができるか」

※詳細はこちら

学会 HP「SAG-J 広場」

<http://www.sag-j.org/community/>

●委員会:『高齢社会 QOL 研究会の例会のお知らせ』
「高齢者の権利擁護をめぐって」(3 月 29 日開催)

※詳細はこちら

学会 HP「学会員活動状況」

http://www.sag-j.org/personal_activity/

日本応用老年学会ホームページでは、みなさまの活動、イベント、著書等を掲載しております。是非ご利用ください。
(掲載情報は随時受付しております。詳しくは HP 各メニューごとの規程をご覧ください。)

<http://www.sag-j.org/>

【3】「老い 十五章」朝日新聞掲載

日本応用老年学会理事長 柴田 博

2. 味覚は経験重ねて研ぎ澄ます (2007年12月17日 夕刊)

物が見えにくくなったり、耳が遠くなったり……。老いると、感覚の能力も衰えてきます。感応テストでも、それがよく分かります。でも、違った感覚があります。味覚です。

赤ちゃんはふつう、甘いものは食べますが、苦いものはき出します。苦いものには「毒」が多く、それを避ける本能が備わっているのでしょう。

しかし、大人は、苦みとか、渋みといったものも割と平気です。それを好む人だっています。

実は、味覚は学習なのです。確かに鋭敏度はほかの感覚と同様に落ちてきますが、過去の体験がいきってくる。味蕾から脳に伝わるその時の反応に加えて、見たり触ったりした際の感覚で「その物」の記憶が呼び覚まされ、脳内でそうした情報が統合されるのです。

もちろん、ほかの感覚も記憶と結びついて情報処理されているのは、味覚と異なりません。味覚はそれが一層顕著なのです。

人間の体には様々な働きがあります。一つひとつを分析していくと、ある年代以降、働きぶりが落ちていくものもあります。

「だから年寄りには」という声が聞こえてきそうですが、「味」は経験を重ねないと分からないものなのです。

.....
以上

-
- ・ 内容、記事に対するご意見、ご感想、ご要望などは、日本応用老年学会「E-mail : info@sag-j.org 」までご連絡をお願いいたします。
 - ・ このメールマガジンは、日本応用老年学会会員・関係者の皆さまに配信しております。配信の停止は「E-mail : info@sag-j.org 」までご連絡をお願いいたします。

編集・発行: 日本応用老年学会事務局
(掲載記事の無断転載を禁じます)

日本応用老年学会事務局
〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
研究所 自立促進と介護予防研究チーム内
TEL : 03-3471-2370
E-mail: info@sag-j.org
日本応用老年学会ホームページ
<http://www.sag-j.org/>
